



2021年3月期 第1四半期決算短信(IFRS)(連結)

2020年8月3日

上場会社名 エーザイ株式会社

上場取引所

東

コード番号 4523 URL <https://www.eisai.co.jp>

代表者 (役職名) 代表執行役CEO (氏名) 内藤 晴夫

問合せ先責任者 (役職名) 執行役 チーフIRオフィサー兼ステークホルダー
コミュニケーション担当 (氏名) 佐々木 小夜子

TEL 03-3817-5120

四半期報告書提出予定日 2020年8月7日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満四捨五入)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前四半期利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	165,583	7.5	32,120	24.4	32,448	20.3	24,753	12.0	24,425	12.7	23,710	672.0
2020年3月期第1四半期	154,001	0.5	25,828	25.5	26,964	26.8	22,095	40.8	21,669	76.1	3,071	88.7

	基本的1株当たり四半期利益	希薄化後1株当たり四半期利益
	円銭	円銭
2021年3月期第1四半期	85.23	85.20
2020年3月期第1四半期	75.64	75.60

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に帰属する持分	親会社所有者帰属持分比率	1株当たり親会社所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円銭
2021年3月期第1四半期	1,040,296	703,311	678,648	65.2	2,367.98
2020年3月期	1,062,140	702,630	678,127	63.8	2,366.29

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
2020年3月期		80.00		80.00	160.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		80.00		80.00	160.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前当期利益		当期利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	719,000	3.4	88,000	29.9	90,000	29.7	67,500	44.9	67,000	45.0	233.00

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

IFRSにより要求される会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 有

会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期1Q	296,566,949 株	2020年3月期	296,566,949 株
------------	---------------	----------	---------------

期末自己株式数

2021年3月期1Q	9,899,980 株	2020年3月期	9,903,184 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期1Q	286,583,220 株	2020年3月期1Q	286,473,031 株
------------	---------------	------------	---------------

信託として保有する当社株式73,483株は、期末自己株式数に含めていませんが、期中平均株式数には、基本的1株当たり四半期利益および希薄化後1株当たり四半期利益の算定において控除する自己株式として含めています。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本発表において提供される資料ならびに情報は、本資料発表日時点における予想、目標、評価、見通し、リスクを伴う想定などの不確実性に基づくものを含んでいます。従って、さまざまな要因の変化により、将来予想などが実際の結果と大きく乖離する可能性があります。予想数値、予想の前提条件その他に関する事項については、8ページをご参照ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

決算補足説明資料は、決算短信に添付しています。また、2020年8月3日(月)に機関投資家・アナリスト向けに決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、当社コーポレートサイトに掲載する予定です。

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	(ページ)
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 研究開発などに関する説明	4
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	8
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1) 要約四半期連結損益計算書	9
(2) 要約四半期連結包括利益計算書	10
(3) 要約四半期連結財政状態計算書	11
(4) 要約四半期連結持分変動計算書	13
(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	15
(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	
(継続企業の前提に関する注記)	16
(会計方針の変更)	16
(セグメント情報)	17
(連結損益計算書)	18
(連結キャッシュ・フロー計算書)	19
(重要な後発事象)	19

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

[売上収益、利益の状況]

- 当第1四半期(2020年4月1日～2020年6月30日)の連結業績は、次のとおりとなりました。

(単位:億円、%)

	2019年度 第1四半期	2020年度 第1四半期	前年同期比
売上収益	1,540	1,656	107.5
売上原価	429	383	89.3
売上総利益	1,111	1,273	114.6
販売費及び一般管理費	600	649	108.3
研究開発費	294	305	103.7
営業利益	258	321	124.4
税引前四半期利益	270	324	120.3
四半期利益	221	248	112.0
親会社の所有者に帰属する四半期利益	217	244	112.7

- 売上収益は、日本における薬価改定や新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響などの減収要因があったものの、抗がん剤「レンビマ」が引き続き全リージョンで大きく伸長したに加え、抗がん剤タゼメトスタット(一般名)の日本以外の地域における売上ロイヤルティ受領権の譲渡に係るマイルストーン収入などにより、増収となりました。
- 主なグローバルブランドの売上収益は、「レンビマ」が347億円(前年同期比140.2%)、抗がん剤「ハラヴェン」が94億円(同85.8%)、抗てんかん剤「フィコンパ」(英名「Fycompa」)が64億円(同107.6%)となりました。
- 販売費及び一般管理費は、COVID-19の影響による販促費用の減少があった一方、「レンビマ」の売上拡大に伴うMerck & Co., Inc., Kenilworth, N.J., U.S.A.(以下、米メルク社)への折半利益の支払い増加や、Biogen Inc.(米国、以下、バイオジェン社)と共同開発している抗アミロイドβ抗体アデュカヌマブ(一般名)の上市準備に係る投資を積極的に行ったことなどにより増加しました。
- 研究開発費は、COVID-19の影響により治験サイトの一時的閉鎖等による一部臨床試験の進行の遅れが生じたものの、バイオジェン社と共同開発している抗アミロイドβプロトフィブリル抗体「BAN2401」におけるフェーズⅢ試験(Clarity AD)等への積極的な資源投入により増加しました。
- 以上の結果、営業利益は前年同期比124.4%の大幅な増益となりました。上述の通り、COVID-19による売上収益へのマイナス影響がありましたが、業績予想に織り込んだ想定範囲内であり、販売費及び一般管理費ならびに研究開発費の進行の遅れも生じたことから、営業利益への影響は軽微でした。

[セグメントの状況]

(各セグメントの売上収益は外部顧客に対するものです)

当社グループは、セグメントを医薬品事業とその他事業に区分しており、医薬品事業を構成する日本、アメリカス(北米)、中国、EMEA(欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア)、アジア・ラテンアメリカ(韓国、台湾、香港、インド、アセアン、中南米等)、一般用医薬品等(日本)の6つの事業セグメントを報告セグメントとしています。

<日本医薬品事業>

- 売上収益は 597 億円(前年同期比 91.4%)、セグメント利益は 253 億円(同 91.3%)となりました。
- 品目別売上収益については、ニューロロジー領域で、不眠症治療剤「ルネスタ」が 36 億円(前年同期比 110.0%)、「フィコンパ」は 12 億円(同 128.3%)と成長しました。ファイザー社と共同販促を展開している疼痛治療剤「リリカ」の共同販促収入は 61 億円(同 85.5%)、アルツハイマー型認知症治療剤「アリセプト」は 29 億円(同 69.2%)となりました。オンコロジー領域では、「レンビマ」が 37 億円(同 107.4%)と引き続き拡大し、「ハラヴェン」は 22 億円(同 86.5%)となりました。ヒト型抗ヒト TNF α モノクローナル抗体「ヒュミラ」は 125 億円(同 96.2%)となりました。
- 2020 年 7 月、不眠症治療剤「デエビゴ」(英名「Dayvigo」)を新発売しました。
- 2020 年 7 月、「フィコンパ」について、細粒剤を新発売しました。

<アメリカス医薬品事業>

- 売上収益は 342 億円(前年同期比 115.4%)、セグメント利益は 172 億円(同 111.3%)となりました。
- 品目別売上収益については、ニューロロジー領域で「Fycompa」が 30 億円(前年同期比 102.2%)と増収を確保し、抗てんかん剤「Banzel」は 51 億円(同 75.6%)となりました。オンコロジー領域では、「レンビマ」が 215 億円(同 155.7%)と引き続き大幅な拡大を果たし、「ハラヴェン」は 32 億円(同 86.9%)となりました。
- 2020 年 6 月、米国において、「Dayvigo」を新発売しました。

<中国医薬品事業>

- 売上収益は 238 億円(前年同期比 107.9%)、セグメント利益は 138 億円(同 132.9%)となりました。
- 品目別売上収益については、「レンビマ」が 42 億円(前年同期比 118.8%)と順調に拡大し、末梢性神経障害治療剤「メチコバル」は 69 億円(同 107.7%)と引き続き成長を示しました。肝臓疾患用剤・アレルギー用薬「強力ネオミノファーゲンシー/グリチロン錠」は 24 億円(同 99.6%)、「アリセプト」は 22 億円(同 79.2%)となりました。

<EMEA 医薬品事業>

- 売上収益は 134 億円(前年同期比 98.0%)、セグメント利益は 66 億円(同 98.3%)となりました。
- 品目別売上収益については、ニューロロジー領域で、「Fycompa」は 17 億円(前年同期比 99.4%)、抗てんかん剤「Zebinix」は 16 億円(同 103.2%)、抗てんかん剤「ゾネグラン」は 8 億円(同 78.5%)となりました。オンコロジー領域では、「レンビマ/Kispplx」が 39 億円(同 131.2%)と大幅に拡大し、「ハラヴェン」は 32 億円(同 80.6%)となりました。

<アジア・ラテンアメリカ医薬品事業>

- 売上収益は 111 億円(前年同期比 88.1%)、セグメント利益は 43 億円(同 91.9%)となりました。
- 品目別売上収益については、「レンビマ」が 14 億円(前年同期比 138.6%)と大きく成長した一方、「アリセプト」は 26 億円(同 90.5%)、「ヒュミラ」は 20 億円(同 65.6%)となりました。

<一般用医薬品等事業>

- 売上収益は 61 億円(前年同期比 94.7%)、セグメント利益は 14 億円(同 74.8%)となりました。
- チョコラ BB グループの売上収益は、31 億円(前年同期比 72.1%)となりました。
- 2020 年 5 月、「新セルベール整胃プレミアム」を新発売しました。

(2)財政状態に関する説明

[資産、負債および資本の状況]

- 資産合計は、1 兆 403 億円(前期末より 218 億円減)となりました。売上収益の増加に伴い営業債権及びその他の債権が増加した一方で、営業債務及びその他の債務の減少などにより現金及び現金同等物が減少しました。
- 負債合計は、3,370 億円(前期末より 225 億円減)となりました。営業債務及びその他の債務が減少しました。
- 資本合計は、前期末と同水準の 7,033 億円(前期末より 7 億円増)となりました。
- 以上の結果、親会社所有者帰属持分比率は 65.2%(前期末より 1.4 ポイント増)となりました。

[キャッシュ・フローの状況]

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、100 億円の収入(前年同期は 41 億円の支出)となりました。主に税引前四半期利益の増加によるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、125 億円の支出(前年同期より 76 億円の支出減)となりました。主に資本的支出等(126 億円、前年同期より 78 億円の支出減)によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、254 億円の支出(前年同期より 88 億円の支出減)となりました。主に配当金の支払いによるものです。
- 以上の結果、現金及び現金同等物の残高は 2,263 億円(前期末より 279 億円減)、営業活動によるキャッシュ・フローから資本的支出等を差し引いたフリー・キャッシュ・フローは 26 億円のマイナスとなりました。

(3)研究開発などに関する説明

[開発品の状況]

- 抗がん剤「レンビマ」(欧州における腎細胞がんに係る製品名:「Kisplyx」、一般名:レンバチニブ、米メルク社との共同開発)
 - ◇ 甲状腺がんに係る適応において、日本、米国、欧州、アジア等の 65 カ国以上で承認を取得しています。中国において、適応追加の申請中です。
 - ◇ 腎細胞がん(セカンドライン)を対象とした、エベロリムスとの併用療法に係る適応において、米国、欧州等の 55 カ国以上で承認を取得しています。
 - ◇ 肝細胞がん(ファーストライン)に係る適応において、日本、米国、欧州、中国、アジア等の 65 カ国以上で承認を取得しています。
 - ◇ 米メルク社の抗 PD-1 抗体ペムブロリズマブとの併用療法について、全身療法後に増悪した、根治的手術または放射線療法に不適応な高頻度マイクロサテライト不安定性を有さない、またはミスマッチ修復機構欠損を有さない進行性子宮内膜がんの適応に

ついて、米国等の5カ国以上で承認を取得しています。

- ◇ ペムブロリズマブとの併用療法について、進行性または転移性腎細胞がんの適応および局所治療に適さない切除不能な進行性肝細胞がん(ファーストライン)の適応に対して、米国においてブレイクスルーセラピーの指定を受けています。
- ◇ 2020年7月、米国で申請中であった、切除不能肝細胞がん一次療法を適応としたペムブロリズマブとの併用療法における116試験(フェーズIb試験)結果に基づく迅速承認申請について、米国食品医薬品局(FDA)から審査完了通知を受領しました。本併用療法の有効性および臨床上のベネフィットに関する十分なエビデンスを示すための臨床試験の推進を含め、今後の適切な対応についてFDAと協議します。なお、本併用療法について、進行性肝細胞がん(ファーストライン)を対象としたフェーズIII試験(LEAP-002試験)が進行中であり、患者様登録も完了しています。
- ◇ 2020年7月、日本において、切除不能な胸腺がんに係る適応追加(単剤療法)を申請しました。同年6月に、当該適応について希少疾病用医薬品の指定を受けています。
- ◇ エベロリムスあるいはペムブロリズマブとの2つの併用療法について、腎細胞がん(ファーストライン)を対象としたフェーズIII試験が日本、米国、欧州において進行中です。
- ◇ ペムブロリズマブとの併用療法について、子宮内膜がん(セカンドライン)、子宮内膜がん(ファーストライン)、肝細胞がん(ファーストライン)、メラノーマ(ファーストライン)、非扁平上皮非小細胞肺癌(ファーストライン)、PD-L1陽性の非小細胞肺癌(ファーストライン)、非小細胞肺癌(セカンドライン)、頭頸部がん(ファーストライン)、膀胱がん(ファーストライン)、肝細胞がん(ファーストライン、肝動脈化学塞栓療法との併用)を対象としたフェーズIII試験を米国、欧州等において進行中です。
- ◇ メラノーマ(セカンドライン)を対象としたフェーズII試験、複数のがん腫を対象としたバスケット試験(フェーズII試験)を米国、欧州等において進行中です。
- ◇ 頭頸部がん(セカンドライン)を対象としたフェーズII試験を米国、欧州で開始しました。
- 抗がん剤「ハラヴェン」(一般名:エリブリン)
 - ◇ 乳がんに係る適応において、日本、米国、欧州、中国、アジア等の75カ国以上で承認を取得しています。
 - ◇ 脂肪肉腫(日本では悪性軟部腫瘍)に係る適応において、日本、米国、欧州、アジア等の65カ国以上で承認を取得しています。
 - ◇ トリプルネガティブ乳がんを対象としたペムブロリズマブとの併用療法に関するフェーズI/II試験が米国において進行中です。
 - ◇ 「ハラヴェン」のリポソーム製剤について、小野薬品工業株式会社(大阪府)の抗PD-1抗体ニボルマブとの併用療法に関するフェーズI/II試験が日本において進行中です。
 - ◇ 米国でフェーズI/II試験段階にあったHER2陰性乳がんを対象としたHalozyme Therapeutics Inc.(米国)が開発中のPEG化遺伝子組換えヒト型ヒアルロン酸分解酵素PEGPH20との併用療法について、開発を終了しました。
- 抗てんかん剤「フィコンパ」(英名「Fycompa」、一般名:ペランパネル)
 - ◇ 12歳以上の部分てんかん併用療法に係る適応において、日本、米国、欧州、中国、アジア等の65カ国以上で承認を取得しています。日本と米国においては、4歳以上の部分てんかんに対する単剤および併用療法の承認を取得しています。

- ◇ 12 歳以上の全般てんかんの強直間代発作に対する併用療法に係る適応において、日本、米国、欧州、アジア等の 65 カ国以上で承認を取得しています。
- ◇ 小児適応について、欧州において追加申請中です。
- ◇ レノックス・ガストー症候群を対象としたフェーズⅢ試験が日本、米国、欧州において進行中です。
- オレキシン受容体拮抗剤「デエビゴ」(英名「Dayvigo」、一般名:レンボレキサント)
 - ◇ 米国において、入眠困難、睡眠維持困難のいずれかまたはその両方を伴う成人の不眠症の適応で承認を取得しています。
 - ◇ 日本において、不眠症の適応で承認を取得しています。
 - ◇ カナダ、オーストラリア、香港において、不眠症に係る適応で申請中です。
 - ◇ アルツハイマー病/認知症に伴う不規則睡眠覚醒リズム障害を対象としたフェーズⅡ試験が日本と米国において進行中です。
- 抗アミロイドβ抗体アデュカヌマブ(一般名、バイオジェン社との共同開発)
 - ◇ 2020 年 7 月、米国において BLA(生物製剤ライセンス申請)の提出が完了しました。欧州においては、当局との正式なミーティングを踏まえ、現在申請準備中です。日本においては、当局と申請に向けた協議を進めています。
- 抗アミロイドβプロトフィブリン抗体「BAN2401」(バイオジェン社との共同開発)
 - ◇ アルツハイマー病による軽度認知障害および軽度アルツハイマー病(総称して早期アルツハイマー病)を対象とした 1 本のフェーズⅢ試験(Clarity AD)が日本、米国、欧州、中国において進行中です。
 - ◇ Alzheimer's Clinical Trials Consortium(ACTC)によって本剤が評価対象薬剤として選択されているプレクリニカルアルツハイマー病を対象とするフェーズⅢ試験(AHEAD 3-45)を開始しました。
- 2020 年 5 月、日本において、「ヒュミラ」について、化膿性汗腺炎に関する用法・用量に関する一部変更の承認を取得しました。
- 2020 年 6 月、韓国において、「エクフィナ」について、パーキンソン病に係る適応で新薬承認を取得しました。
- 2020 年 6 月、抗がん剤タゼメトスタット(一般名、開発コード「E7438」)について、日本において、EZH2 遺伝子変異陽性の濾胞性リンパ腫に係る適応で新薬承認申請しました。

[主な提携など]

- 2020 年 4 月、生化学工業株式会社(東京都)と同社が創製した変形性関節症治療剤「SI-613」について、中国における共同開発および販売提携に関する契約を締結しました。
- 2020 年 7 月、非営利組織である Global Coalition for Adaptive Research(米国)および University of Pittsburgh Medical Center(米国)と共同で、当社創製の TLR(Toll-Like Receptor)4 拮抗剤エリトランを用いた COVID-19 による入院患者様に対する複数の治療薬の効果を確認する臨床試験 REMAP-COVID の開始を発表しました。
- 2020 年 7 月、当社が創製した新規の経口 TLR7/8 阻害剤「E6742」を用いた全身性エリテマトーデス治療薬の創製をめざし、日本において 4 つの大学との間で産学官共同研究開発契約を締結しました。本研究プロジェクトは国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の医療研究開発革新基盤創成事業(CICLE)に採択されています。

- 2020年7月、株式会社アルム(東京都)および国立大学法人東京医科歯科大学(東京都)の間で、LINE と連携した新型コロナウイルス感染症自宅・宿泊療養患者向け SpO₂ 測定スマホアプリモニタリングシステムについて、産学官共同研究契約を締結しました。本研究プロジェクトは AMED の「ウイルス等感染症対策技術開発事業」に採択されています。
- 2020年7月、株式会社ディー・エヌ・エーの子会社である DeSC ヘルスケア株式会社(東京都)との業務提携契約に基づき、両社で共同開発した認知症に備えるためのブレインパフォーマンスアプリ「Easiit(イージット)アプリ」の提供を開始しました。本アプリの提供開始により、エーザイ認知症プラットフォームが本格始動しました。

(4)業績予想などの将来予測情報に関する説明(2020年4月1日～2021年3月31日)
[連結業績予想]

- 2020年5月13日に公表した連結業績予想から変更はありません。

	2019年度	2020年度予想	前期比
売上収益	6,956億円	7,190億円	103.4%
営業利益	1,255億円	880億円	70.1%
税引前当期利益	1,281億円	900億円	70.3%
当期利益	1,225億円	675億円	55.1%
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,218億円	670億円	55.0%
基本的1株当たり当期利益	425.01円	233.00円	54.8%

*前提為替レート:1米ドル105円、1ユーロ117円、1英ポンド130円、1人民元14.6円

[将来予想に関する事項と事業等のリスク]

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、現在における予想、目標、評価、見通し、リスクを伴う想定などの不確実性に基づくものを含んでいます。従って、さまざまな要因の変化により、将来予想などが実際の結果と大きく乖離する可能性があります。リスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった日本および国際的な経済状況が含まれています。
- 当社グループの業績を大幅に変動させる、あるいは投資判断に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクや不確実性は、次のとおりです。ただし、これらは当社グループにかかるすべてのリスクや不確実性を網羅したものではなく、現時点において予見できない、あるいは重要とみなされていない他の要因の影響を将来的に受ける可能性があります。
- なお、これらは本発表日現在において判断したものであり、文中の将来に関する事項はその発生あるいは達成を保証するものではありません。
- 企業理念に基づく経営に関するリスク、ADフランチャイズの構築に関するリスク、レンビマの価値最大化に関するリスク、パートナーシップモデルに関するリスク、デジタルトランスフォーメーションに関するリスク、新薬開発の不確実性に関するリスク、副作用発現のリスク、製品品質および安定供給に関するリスク、知的財産に関するリスク、訴訟に関するリスク、データの信頼性に関するリスク、医療費抑制策に関するリスク、サクセッションに関するリスク、情報セキュリティに関するリスク、新型コロナウイルス感染症に関するリスク、気候変動に関するリスク、のれんや無形資産の減損に関するリスク
- なお、上記リスク項目の詳細に関しては、当社の有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年6月30日)	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月 1日 至 2019年6月30日)
売上収益	165,583	154,001
売上原価	△38,282	△42,890
売上総利益	127,301	111,111
販売費及び一般管理費	△64,924	△59,962
研究開発費	△30,530	△29,429
その他の収益	710	4,777
その他の費用	△437	△671
営業利益	32,120	25,828
金融収益	651	1,440
金融費用	△323	△304
税引前四半期利益	32,448	26,964
法人所得税	△7,695	△4,869
四半期利益	24,753	22,095
四半期利益の帰属		
親会社所有者	24,425	21,669
非支配持分	328	425
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	85.23	75.64
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	85.20	75.60

(2) 要約四半期連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年6月30日)	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月 1日 至 2019年6月30日)
四半期利益	24,753	22,095
その他の包括利益		
損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産	1,100	△2,498
小計	1,100	△2,498
損益にその後に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△2,174	△16,537
キャッシュ・フロー・ヘッジ	31	11
小計	△2,143	△16,526
その他の包括利益合計	△1,043	△19,024
四半期包括利益	23,710	3,071
四半期包括利益の帰属		
親会社所有者	23,378	2,646
非支配持分	332	425

(3) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位:百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (2020年6月30日)	前連結会計年度末 (2020年3月31日)
資産		
非流動資産		
有形固定資産	144,310	144,638
のれん	167,003	168,682
無形資産	103,455	106,094
その他の金融資産	42,305	39,779
その他	14,350	15,104
繰延税金資産	67,626	66,438
非流動資産合計	539,049	540,735
流動資産		
棚卸資産	70,921	65,735
営業債権及びその他の債権	183,991	180,022
その他の金融資産	666	1,555
その他	19,361	19,849
現金及び現金同等物	226,308	254,244
流動資産合計	501,247	521,405
資産合計	1,040,296	1,062,140

(単位:百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (2020年6月30日)	前連結会計年度末 (2020年3月31日)
資本		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	44,986	44,986
資本剰余金	77,601	77,609
自己株式	△34,260	△34,338
利益剰余金	507,957	505,359
その他の資本の構成要素	82,365	84,511
親会社の所有者に帰属する持分合計	678,648	678,127
非支配持分	24,663	24,503
資本合計	703,311	702,630
負債		
非流動負債		
借入金	54,951	54,945
その他の金融負債	35,608	36,572
引当金	1,365	1,346
その他	13,242	14,112
繰延税金負債	298	569
非流動負債合計	105,465	107,545
流動負債		
借入金	34,998	34,994
営業債務及びその他の債務	61,868	76,879
その他の金融負債	21,295	25,507
未払法人所得税	6,309	5,355
引当金	17,807	18,739
その他	89,244	90,492
流動負債合計	231,520	251,965
負債合計	336,985	359,510
資本及び負債合計	1,040,296	1,062,140

(4) 要約四半期連結持分変動計算書

当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					その他の資本 の構成要素
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の包括 利益を通じて 公正価値で測定 する金融資産	
期首残高 (2020年4月1日)	44,986	77,609	△34,338	505,359	—	
四半期利益	—	—	—	24,425	—	
その他の包括利益合計	—	—	—	—	1,100	
四半期包括利益	—	—	—	24,425	1,100	
剰余金の配当	—	—	—	△22,933	—	
株式報酬取引	—	△8	—	—	—	
自己株式の取得	—	—	△7	—	—	
自己株式の処分	—	△0	85	—	—	
振替	—	—	—	1,100	△1,100	
その他	—	—	—	6	—	
所有者との取引額等合計	—	△8	79	△21,827	△1,100	
期末残高 (2020年6月30日)	44,986	77,601	△34,260	507,957	—	

	親会社の所有者に帰属する持分					
	その他の資本の構成要素			親会社の 所有者に帰属 する持分合計	非支配持分	資本合計
	在外営業 活動体の 換算差額	キャッシュ・ フロー・ ヘッジ	その他の資本 の構成要素 合計			
期首残高 (2020年4月1日)	84,704	△192	84,511	678,127	24,503	702,630
四半期利益	—	—	—	24,425	328	24,753
その他の包括利益合計	△2,177	31	△1,047	△1,047	4	△1,043
四半期包括利益	△2,177	31	△1,047	23,378	332	23,710
剰余金の配当	—	—	—	△22,933	△172	△23,105
株式報酬取引	—	—	—	△8	—	△8
自己株式の取得	—	—	—	△7	—	△7
自己株式の処分	—	—	—	85	—	85
振替	—	—	△1,100	—	—	—
その他	—	—	—	6	—	6
所有者との取引額等合計	—	—	△1,100	△22,856	△172	△23,029
期末残高 (2020年6月30日)	82,527	△162	82,365	678,648	24,663	703,311

前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					その他の資本 の構成要素
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の包括 利益を通じて 公正価値で測定 する金融資産	
期首残高 (2019年4月1日)	44,986	77,590	△34,671	438,489	—	
四半期利益	—	—	—	21,669	—	
その他の包括利益合計	—	—	—	—	△2,498	
四半期包括利益	—	—	—	21,669	△2,498	
剰余金の配当	—	—	—	△22,922	—	
株式報酬取引	—	△21	—	—	—	
自己株式の取得	—	—	△38	—	—	
自己株式の処分	—	3	39	—	—	
振替	—	—	—	△2,498	2,498	
その他	—	—	—	16	—	
所有者との取引額等合計	—	△18	2	△25,403	2,498	
期末残高 (2019年6月30日)	44,986	77,572	△34,669	434,755	—	

	親会社の所有者に帰属する持分					
	その他の資本の構成要素			親会社の 所有者に帰属 する持分合計	非支配持分	資本合計
	在外営業 活動体の 換算差額	キャッシュ・ フロー・ ヘッジ	その他の資本 の構成要素 合計			
期首残高 (2019年4月1日)	102,144	△418	101,726	628,120	23,862	651,981
四半期利益	—	—	—	21,669	425	22,095
その他の包括利益合計	△16,537	11	△19,024	△19,024	△0	△19,024
四半期包括利益	△16,537	11	△19,024	2,646	425	3,071
剰余金の配当	—	—	—	△22,922	△7	△22,929
株式報酬取引	—	—	—	△21	—	△21
自己株式の取得	—	—	—	△38	—	△38
自己株式の処分	—	—	—	42	—	42
振替	—	—	2,498	—	—	—
その他	—	—	—	16	—	16
所有者との取引額等合計	—	—	2,498	△22,922	△7	△22,929
期末残高 (2019年6月30日)	85,607	△407	85,200	607,843	24,280	632,124

(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年6月30日)	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月 1日 至 2019年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	32,448	26,964
減価償却費及び償却費	8,681	8,269
運転資本の増減額(△は増加)	△22,885	△28,108
利息及び配当金の受取額	731	1,414
利息の支払額	△267	△118
法人所得税の支払額	△7,118	△7,038
その他	△1,542	△5,456
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,049	△4,073
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△8,841	△4,538
有形固定資産の売却による収入	13	825
無形資産の取得による支出	△3,235	△21,961
子会社の売却による収入	—	5,832
金融資産の取得による支出	△610	△672
金融資産の売却・償還による収入	38	64
3か月超預金の預入による支出	△1	△30
3か月超預金の払戻による収入	74	501
その他	65	△159
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,497	△20,139
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	—	△9,000
リース負債の返済による支出	△2,369	△2,285
配当金の支払額	△22,933	△22,922
その他	△89	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△25,391	△34,214
現金及び現金同等物に係る換算差額	△97	△8,005
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△27,935	△66,430
現金及び現金同等物の期首残高	254,244	291,924
現金及び現金同等物の期末残高	226,308	225,494

(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下の基準書及び解釈指針を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。当社グループが、当該基準書及び解釈指針を適用したことによる、当要約四半期連結財務諸表への重要な影響はありません。

なお、当社グループは、COVID-19に関連した賃料減免が発生した場合に、リースの条件変更に該当するかどうかの評価を免除する、任意の実務上の便法を利用可能とするため、IFRS第16号「リース」を当連結会計年度より早期適用しています。

基準書及び解釈指針	強制適用開始時期 (以降開始年度)	当社グループ 適用開始時期	概要
IAS第1号 財務諸表の表示 IAS第8号 会計方針、会計上の見積り の変更及び誤謬	2020年1月1日	2021年3月期	「重要性がある」の定義についての改訂
IFRS第7号 金融商品：開示 IFRS第9号 金融商品 IAS第39号 金融商品：認識及び測定	2020年1月1日	2021年3月期	金利指標改革に対応してヘッジ会計に関する要求事項の一部を改訂
IFRS第16号 リース	2020年6月1日	2021年3月期 早期適用	COVID-19に関連した賃料減免に関する改訂

(セグメント情報)

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、トップマネジメントが定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループは、セグメントを医薬品事業とその他事業に区分しており、医薬品事業を構成する日本、アメリカス(北米)、中国、EMEA(欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア)、アジア・ラテンアメリカ(韓国、台湾、香港、インド、アセアン、中南米等)、一般用医薬品等(日本)の6つの事業セグメントを報告セグメントとしています。

(単位:百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年6月30日)		前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月 1日 至 2019年6月30日)	
	売上収益	セグメント利益	売上収益	セグメント利益
医薬品事業				
日本	59,725	25,270	65,366	27,690
アメリカス	34,182	17,181	29,626	15,431
中国	23,841	13,847	22,099	10,423
EMEA	13,404	6,590	13,673	6,701
アジア・ラテンアメリカ	11,088	4,259	12,588	4,636
一般用医薬品等	6,127	1,402	6,470	1,874
報告セグメント計	148,366	68,550	149,823	66,755
その他事業(注1)	17,217	15,136	4,178	1,598
事業計	165,583	83,686	154,001	68,353
研究開発費(注2)	—	△30,530	—	△29,429
親会社の本社管理費等(注3)	—	△21,035	—	△17,471
子会社売却益	—	—	—	4,374
要約四半期連結損益計算書の営業利益	—	32,120	—	25,828

(注1) その他事業は、親会社のライセンス収入及び医薬品原料などに係る事業です。

(注2) 当社グループは、研究開発費をグローバルに管理しているため、セグメントに配分していません。

(注3) 親会社の本社管理費等は、当社グループ全体の運営に係る費用等であり、パートナーとの戦略的提携に伴う利益及び費用の折半金額を含めています。当第1四半期連結累計期間の親会社の本社管理費等には、当社グループがMerck & Co., Inc., Kenilworth, N.J., U.S.A. (以下、「米メルク社」という。)に支払う抗がん剤「レンビマ」の折半利益16,497百万円(前第1四半期連結累計期間は10,939百万円)を含めています。

(連結損益計算書)

(1) 売上収益

当社グループは、売上収益を財またはサービスの種類別に分解しています。分解した売上収益と報告セグメントとの関係は、次のとおりです。なお、各四半期連結累計期間の売上収益は、全て顧客との契約から認識しています。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

(単位:百万円)

	医薬品販売 による収益	ライセンス供与 による収益	その他の収益	合計
医薬品事業				
日本	52,790	282	6,653	59,725
アメリカス	34,182	—	—	34,182
中国	23,841	—	—	23,841
EMEA	13,404	—	—	13,404
アジア・ラテンアメリカ	11,066	22	—	11,088
一般用医薬品等	6,127	—	—	6,127
報告セグメント計	141,409	304	6,653	148,366
その他事業(注1)	—	14,806	2,411	17,217
合計	141,409	15,110	9,064	165,583

(注1) その他事業は、親会社のライセンス収入及び医薬品原料などに係る事業です。

前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

(単位:百万円)

	医薬品販売 による収益	ライセンス供与 による収益	その他の収益	合計
医薬品事業				
日本	56,887	748	7,731	65,366
アメリカス	29,615	12	—	29,626
中国	22,099	—	—	22,099
EMEA	13,673	—	—	13,673
アジア・ラテンアメリカ	12,422	166	—	12,588
一般用医薬品等	6,470	—	—	6,470
報告セグメント計	141,167	925	7,731	149,823
その他事業(注1)	723	1,238	2,216	4,178
合計	141,890	2,164	9,947	154,001

(注1) その他事業は、親会社のライセンス収入及び医薬品原料などに係る事業です。

(2) 販売費及び一般管理費

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが米メルク社に支払う抗がん剤「レンビマ」の折半利益16,497百万円(前第1四半期連結累計期間は10,939百万円)を販売費及び一般管理費に計上しています。

(3) その他の収益

前第1四半期連結累計期間において、エルメッド エーザイ株式会社(東京都)の譲渡に伴う子会社売却益4,374百万円を計上しています。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前第1四半期連結累計期間において、エルメッド エーザイ株式会社の譲渡に伴う子会社の売却による収入5,832百万円を計上しています。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。